

## ミナミイワトビペンギンが誕生しました 凍結精子を用いた人工授精による雛である可能性があり、 成功が確認できた場合、世界初となります

大阪市港区の海遊館では、平成 29 年 6 月 7 日（水）の朝、ミナミイワトビペンギンの赤ちゃんが 1 羽誕生しました。一般公開中の「フォークランド諸島」水槽では、愛くるしい姿の赤ちゃんとお微笑ましい子育ての様子をご覧いただけます。

今回誕生したミナミイワトビペンギンの赤ちゃんは、人工授精を行った親鳥から産まれました。昨年、海遊館ではミナミイワトビペンギンの人工授精に世界で初めて成功しましたが、今回はさらに発展させた試みとして、凍結した精子を用いて人工授精を行いました。人工授精による赤ちゃんであるかどうかは、DNA 検査を行い約 1 ヶ月後に判明する予定です。人工授精であることが確認できた場合、ミナミイワトビペンギンにおける凍結精子を用いた人工授精として、世界で初めて成功したことになります。

現在は親鳥が熱心に子育てをしています。赤ちゃんは親鳥のお腹の下に隠れていますが、親鳥が動いたタイミングなどに顔を出し、ピーピーと鳴く様子をご覧いただけます。



ミナミイワトビペンギンの雛（6月7日朝撮影）

### 【取材のご案内】

雛は親鳥のお腹の下に隠れているため、体重測定時の撮影をおすすめしております。

取材ご希望の際は、事前にご連絡ください。

平成 29 年 6 月 7 日 16:20 より体重測定（16:00 海遊館前集合）

6 月 8 日以降 10:00 より体重測定

連絡先 海遊館広報チーム 06-6576-5529

#### ◆今回誕生した雛と実施した人工授精について

産卵日 5月5日

孵化日 6月7日

今年の4月に葛西臨海水族園（東京都）の協力のもとイワトビペンギンの精子を採取・凍結し、その後、解凍した精子を用いて人工授精を行いました。



今期は他に1羽のメスのペンギンに人工授精を行い、現在1個の卵を得られています。無事に孵化した場合、残りの1羽もDNA検査を行い、人工授精によるものかどうかを調べる予定です。

#### ◆凍結精子による人工授精の意義について

人工授精の技術を確立し、技術が普及することで、国内外の水族館や動物園におけるペンギン類の繁殖を向上させることができます。

さらに凍結精子による人工授精が可能になれば、絶滅の恐れがある野生下のミナミイワトビペンギンの種の保存にも貢献することができます。

#### ◆協力：葛西臨海水族園 電話：03（3869）5152 代表

日本最大級の屋外展示場「ペンギンの生態」で、フンボルトペンギン、フェアリーペンギン（別名コガタペンギン）、イワトビペンギン、オウサマペンギンの4種を飼育している。特に、フンボルトペンギン、フェアリーペンギンとイワトビペンギンの飼育数は国内最大で、(公社)日本動物園水族館協会が行なっている希少種繁殖の取組みでは、フンボルトペンギンとフェアリーペンギンの血統管理を担っている。

#### ◆ミナミイワトビペンギンについて

フォークランド諸島など南極周辺の島々に生息し、体長は約50cmでペンギンのなかでも小型の種。岩場を飛び跳ねながら移動することからこの名前が付いた。目の上にある黄色い冠羽が特徴。沿岸の岩場の小石や雑草で巣を作り、メスは1回の繁殖で通常2個の卵を産む。ペンギンの中では気性がやや激しい。小魚やオキアミなどを食べる。IUCN（国際自然保護連合）が定めるレッドリストにて、絶滅危惧種に指定されている。

海遊館のミナミイワトビペンギンの飼育総数は、22羽（メス8羽、オス14羽）。